



国際人を育てよう!

第三小が国際教育推進プランで 全国先駆け

町立東川第三小（渡辺輝男校長、児童17人）が文部科学省の「国際教育推進プラン」地域申核校に決まりました。国際感覚豊かな子供たちを育てるため、今後独自の学習プログラムを作って取り組みを始めます。併せて町内の幼、小、中、高校でも並行して国際教育プログラムをスタート。近くその学習内容の検討も始めます。子供たちの豊かな国際感覚の成長が楽しみです。

文部科学省が小学校を中核とするプランの地域選定を2カ年で進めてきました（大学を中核校に選定する別プランもあります）。

今年は、山形県新庄市とともに全国2地域。道内唯一の選定です。いずれも3カ年の取り組みとしてスタートします。

昨年度は湘南台小など（神奈川県藤沢市）、針小など（新潟県上越市）、津市立栗真小など（三重県津市）、上野小など（大阪府豊中市）の全国4地域が選定を受け、すでに取り組みが始まっています。

中核校を中心に、地域で国際教育に取り組みます。本町では、第三小を中核に幼児センター、小、中、高校を合わせて、町内すべての公共教育機関が足並みをそろえ、それぞれ独自プランで国際化教育に取り組む予定です。

英語活動だけでなく、郷土の学習、異文化を知る学習も取り入れます。海外の人たちとの交流も進め、国際性を身につけてもらう狙いです。

町は、かねてカナダ・キャンモア町と姉妹交流しています。ラトビア共和国と民間ベースの

文化交流も行われています。

そして第三小では、3年生以上の児童を対象に、平成16年から総合学習に英語活動を取り入れて子供たちに国際的な視野を



アシュリーさんと会話しながら英語活動

育んできました。

英語指導助手のアシュリー・ペトウルツチさんと一緒に英会話で外国文化を学んだり、英語劇に挑戦もしました。旭川医大のJICA海外研修生との交流もしました。

これらの取り組みが総合的に評価されました。

6月、国際教育推進協を立ち上げ

町では6月にも東川国際教育推進協議会（仮称）を立ち上げます。メンバーには、道教育大旭川校、北大、旭川医大から専門家も加わる予定。特色ある教育プログラムをまとめることにしています。

渡辺校長は「英語中心の活動から、もっと国際理解を深める幅広い活動に取り組みながら、国際性豊かな子供の育成を目指します。近くの農場には中国からの研修生もいて、子供たちとの交流も始まっているので、もっとさまざまな取り組みをしたい」と話しています。